

第2回国際福祉健康産業展（ウェルフェア'99）に出展

平成11年5月28日（金）から30日（日）までの3日間、ポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）にて、第2回国際福祉健康産業展が開催された。メーカー、関連団体からの出展規模は、昨年第1回の120社を上回る160社となり、会場も昨年の2号館からより広い3号館に移された。

3日間の総入場者数は第1回の5万人を上回る57,320人となり、盛況であった。来場者の内訳は、学生・一般55.1%、福祉・医療関係18.2%、メーカー17.2%、政府・行政機関5.0%、建築建設関係4.5%であり、一般の来場者にはお年寄りや、障害を持つ子供を連れた親子連れが目立った。展示品は、福祉車両をはじめ福祉用具および関連製品、車いす、家具、住宅設備、介護用品等が出展された。

技術研究所からは、研究事業により開発された3輪タイプ・アームサイクル（クランクタイプ）、2輪タイプ・アームサイクル（補助輪上下式）、トランスポートビークル（足漕ぎ式介助用乗り物）、プレイビークル（手漕ぎ乗り物）の4種類を出展し、障害者（児）の乗り物に関する情報発信を行った。また、当所で保管している歴史的に非常に貴重な車いす（手動車いす2台、電動車いす2台）についても展示を行い、車いすの歴史的歩みを紹介した。

技研のブースに訪れ、トランスポートビークルを試乗した乗り手、漕ぎ手の方々からは、見た目より安定感があると評判であった。また、コンパクトに収納できるのも好評であった。さらに、かなり年配の方からは「これに乗って、家内と一緒に出かけたい」という声が聞かれた。障害児を持つ家族からは今すぐ欲しいという要望が挙がった。こういった乗り物に対するニーズの高さを改めて感じた。プレイビークルに対して興味を示される親子連れも多数あり、障害児がこの乗り物を操作して、動いたときは母親も子供自身もかなり喜んでいる雰囲気が感じられた。また、施設関係者の方からは遊びながら運動機能の強化ができるという声が聞かれた。アームサイクルに関しても熱心に質問される方がみえた。歴史的に古い車いすの展示紹介については、来場者が写真撮影を行うなど人気が高かった。

このように、技研独自のコンセプトに基づき開発した乗り物の提案に対し、多数の入場者が関心を示された。これを機会に市販化に向けた取り組みを図っていきたい。

（車いす開発室）

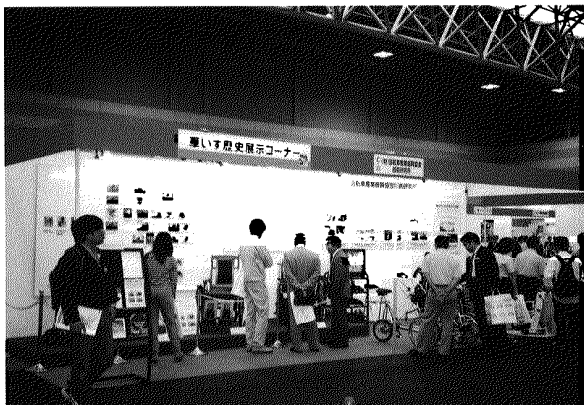


写真1 技研ブース



写真2 プレイビークル試乗